

2025 年度ほくでんグループ環境実績

環境 指針	環境管理項目		2025 目標	目標 年度	対象 範囲※3	2025 実績
地球温暖化対策とカーボンニュートラル達成に向けた貢献	温室効果ガスの削減	ほくでんグループのサプライチェーン排出量 (スコープ 1+2+3) ※1	2013 年度比で 46%削減	2030	G	2, 217 万 t-CO ₂
			2013 年度比で 60%削減	2035	G	
			排出量ゼロを目指す	2050	G	
		削減貢献量 (スコープ 4) ※2	150 万 t	2030	G	20 万 t-CO ₂
			250 万 t	2035	G	
		再エネ発電の拡大 (開発規模ベース)	100 万 kW 以上 ※持分ベースで 30 万 kW 以上	2030	G	累計：20.9 万 kW
			300 万 kW 以上 ※持分ベースで 100 万 kW 以上	2035	G	
	安全性の確保を大前提とした 泊発電所の活用	早期再稼働	—	H	泊発電所 3 号機の原子炉設置変更許可を取得 (2025 年 7 月 30 日)。 その後工事計画を補正し、審査は確実に進捗。	
	火力発電の脱炭素化	苫東 4 号アンモニア混焼開始、CCS 事業開始	2030	H	[苫東 4 号アンモニア混焼] 導入に向け設計・検討を継続実施。なお、受入・貯蔵・払出は苫小牧地域を拠点としたアンモニアサプライチェーン構築 (苫東 4 号はアンモニア 20%転換) に向けた設計・検討を開始。 [CCS 事業] 苫小牧地域における CCS 事業 (苫東 4 号の CO ₂ 分離回収) の設計・検討を継続実施。	
		アンモニア専焼運転、 水素混焼～専焼運転	2040 年代	H	[アンモニア専焼] 苫小牧地域を拠点としたアンモニアサプライチェーン構築に向けた設計・検討を継続実施 (2025 年 3 月 27 日に拠点整備支援認定を取得)。	
	再エネ導入拡大に向けた 次世代型電力ネットワーク の構築	北海道本州間連系設備の増強	新々北本 (30 万 kW 増強) の運用開始	2027	N	計画通り進捗。
推進	大気汚染防止	硫黄酸化物 (SOx) 排出量の低減	排出原単位 0. 6g/kWh	—	G	0. 41g/kWh
		窒素酸化物 (NOx) 排出量の低減	排出原単位 0. 5g/kWh	—	G	0. 42g/kWh
	有害化学物質の適正処理	低濃度 PCB 含有柱上変圧器の処理	期限内処理	2026 (法定処理期限)	N	処理重量 452.1t、処理台数 3, 200 台

環境 指針	環境管理項目		2025 目標	目標 年度	対象 範囲※3	2025 実績
成 環 型 社 会 の 形 成 に 向 け た 貢 献	産業廃棄物の排出抑制・再資源化等の推進		産業廃棄物リサイクル率 95%	2025	G	94.6%
	プラスチック資源循環の推進		廃プラスチックリサイクル率 50%	2025	G	64.5%
へ の 配 慮 性	生物多様性の保全	TNFD の枠組みを活用した事業活動による生物多様性への影響を分析・評価	TNFD の枠組みに基づく開示	2025	HN	当社ホームページにおける開示情報の見直し・充実（2026 年 4 月）。
示 と 対 話 の 推 進 開	地域の皆さまとの対話の推進		環境保全や SDGs 教育支援事業等あらゆる機会を通じた積極的な対話活動	—	G	・全道各地での海浜清掃。 ・「ほくでん北森カレッジ共創の森」での植樹活動。 ・SDGs 教育支援事業の継続。
以 外 の 目 標	環境管理の徹底	環境法令の遵守	重大な環境法令違反件数ゼロ	—	G	0 件
		従業員の環境意識の醸成	環境教育の実施とサステナブル行動の推進	—	G	・環境教育の実施。 ・オフィスでの水の使用量、コピー用紙購入量削減。 ・グリーン調達率 96.9%

※1 スコープ 1：当社事業所からの直接排出（主に火力発電所）、スコープ 2：当社が需要家として供給を受けた電気、熱等の使用に伴う間接排出、スコープ 3：左記以外の間接排出（主に他社購入電力に伴う間接排出）

※2 スコープ 4：従来の製品・サービス（ベースライン）と新たな製品・サービスの温室効果ガス排出量の差分であり、製品・サービスを通じて社会全体の気候変動の緩和（インパクト）への貢献を定量化したもの

※3 対象範囲： H：北海道電力、N：北海道電力ネットワーク、G：ほくでんグループ